



# 2019年度 SDGs年次活動報告書

(2019年2月1日~2020年1月31日)



**UR**

URBAN RESEARCH Co.,Ltd.

# 株式会社アーバンリサーチは国際社会の一員として、積極的にSDGs（持続可能な開発目標）を支援します。



この度、株式会社アーバンリサーチは、初めて“SDGs年次活動報告書”を作成致しました。この報告書を通じて、お客様をはじめとするステイクホルダーの皆様へ、弊社のSDGsに対する考え方や活動内容などをお伝えできればと思います。また、活動に共感していただける方々におかれましては、是非とも弊社の取り組みにご協力いただければ幸いです。

## SDGsとは、

「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称です。2015年9月の国連サミットで「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、国連加盟国が2016年から2030年の15年間で達成するための17の目標と、169のターゲットが掲げられました。



全社一丸となって、取り組みます。



## INDEX

1. 基本方針の策定
2. 主な3C事例
3. 2019年度の活動
4. 特集ページ

## 1. 基本方針の策定

株式会社アーバンリサーチはアパレル企業という視点から、SDGsに対して企業風土を活かしたアプローチをするため、「3C」というSDGs基本方針を定めました。(2019年12月開示)

### SDGs基本方針

株式会社アーバンリサーチは、国際社会の一員として、積極的にSDGsを支援します。

中でも頭文字が『C』から始まる次の3つのテーマを中心に、アパレル企業視点で個性を活かした取り組みを推進します。



Move forward in our ways to SDGs  
by URBAN RESEARCH Co.,Ltd.

#### 1. Clothing Innovation / 衣料資源の有効活用



Clothing Innovation

取り組み内容

- 1-1. サステナブル素材の活用
- 1-2. 生産量の適正化
- 1-3. アップサイクルの推進

関連する主なSDGsの目標



#### 2. Clean Earth / 地球環境負荷の軽減



Clean Earth

取り組み内容

- 2-1. 従業員の環境に対する意識向上
- 2-2. 環境問題に関するお客様との価値共感
- 2-3. 環境にやさしいオフィスづくり

関連する主なSDGsの目標



#### 3. Community Building / コミュニティの形成



Community Building

取り組み内容

- 3-1. 地域の技術や特産品を活かしたモノづくり
- 3-2. 異業種や自治体・NPOなど多様なビジネスパートナーシップ
- 3-3. 人々が集まり価値を共感できる場所づくり

関連する主なSDGsの目標



## 2. 主な活動事例

### 1. Clothing Innovation / 衣料資源の有効活用



Clothing Innovation

- 1-1. サステナブル素材の活用
- 1-2. 生産量の適正化
- 1-3. アップサイクルの推進

#### GREEN DOWN PROJECTの推進強化

Green Down Projectの一員として羽毛製品の回収とリサイクルされた羽毛での商品企画を積極的に取り組み、羽毛循環サイクル社会に貢献しています。

羽毛は洗浄、精製加工することで“100年循環できる資源”と言われています。弊社は本プロジェクトの立ち上がり当初の2015年から参加しており、参加時はURBAN RESEARCH DOORSの約40店舗に羽毛製品回収ボックスを設置していましたが、2020年1月末現在では9ブランド268店舗に回収ボックスを設置しています。

また回収後に洗浄、精製加工された羽毛（＝グリーンダウン）を使用したダウン製品の製造販売を積極的に進めております。



店舗に設置している回収ボックス



Green Down Project



#### 生産量の適正化に向けた取り組み

生産量を適正化するには様々なアプローチがありますが、基本的には販売を予測し、その予測に基づき生産・販売を行うことで在庫を残さないことが大切だと考えています。ここで重要な役割を担うのがMD（マーチャンダイザー）とDB（ディストリビューター）です。MDは市場の動向を探り、商品生産や販売に関する計画を立て、業績管理などを行います。また、DBは入荷した商品を各店舗・ネットに分配し在庫の最適化を図ります。

弊社ではMD・DBが毎週集まり、専門知識の豊富な講師とディスカッションしています。これにより最先端の業務知識の習得や、現状の課題に対する適切な解決策の実施、ブランド間の業務標準化などが進んでいます。また、最新のIT技術活用といった新たなアプローチを模索するなど、様々な方法で生産量の適正化を図っています。

#### オリジナル家具ブランド“Bothy”

URBAN RESEARCH DOORSのオリジナル家具ブランドです。2015年12月に販売開始して以降、ソファやダイニングテーブルなど様々な商品を展開しています。

“Bothy”のコンセプトは「本来の木の表情やぬくもりを感じていただける家具作り」です。

できる限り無駄な伐採や木材を出さず、また木の表情を生かすために、無垢材や軽塗装を使用しています。

マーケット（人間）都合で量産市場では使われづらかった、節ありのオーク無垢材を同ブランドでは使用しており、節や色の違いを排除するのではなく、1点1点個体差があるということを魅力に捉え、新しい価値観を提案しています。





## 2. Clean earth / 地球環境負荷の軽減



Clean Earth

- 2-1. 従業員の環境に対する意識向上
- 2-2. 環境問題に関するお客様との価値共感
- 2-3. 環境にやさしいオフィスづくり



### SDR（エス・ディー・アール）の活動

サステナブルやSDGsを全社一丸となって推進していくため、2018年11月にSDR（Sustainable Development Research）というプロジェクトチームを発足しました。約15名ほどのメンバーで毎週集まって1時間半程のミーティングをしています。メンバーは経営企画、生産管理、バイヤー、商品企画、販売促進、人事、内部監査など部門横断で構成されており、サステナブル関連の情報交換や進行中のプロジェクトの進捗共有と各種企画立案を行っています。

2019年12月に宣言をした「アーバンリサーチのSDGs基本方針」はこのSDRのメンバーで議論を重ね、アパレル企業らしい取り組み方という視点で策定しました。

SDRの各メンバーが社内外で積極的にSDGs支援や3C推進活動を行ってくれています。これによって、最近では「SDGs支援や3Cは全社を挙げて進めていく」、という意識が社内の従業員にも浸透してきており、各ブランド独自のサステナブル施策が始まっています。こうした施策の実施に当たっては、SDRメンバーとブランド側で、その施策がSDGs支援というものに本当に繋がるのかどうか、お客様や世の中、会社にとって何が本当に必要なのか、などについて深く議論するようになってきました。

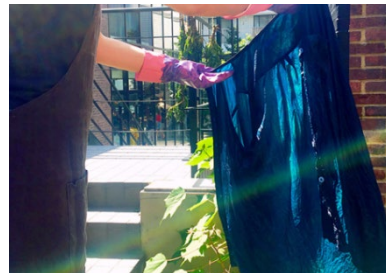


執行役員 萩原 直樹

### お客様と取り組む“Workshop”の実施

お客様と環境問題に関する価値共感として、店舗や催事・イベントで各種ワークショップを実施しています。

ファッション産業の廃棄物をリサイクルした糸を使用した“オリジナルチャーム”やcommpost（廃棄衣料のアップサイクル / p.17）の樹脂シートを使用した“サコッシュ作り”、色あせてしまったり、汚れてしまったりで自宅に眠っているお洋服を持ち寄って頂き、藍染めを行ったり、様々なワークショップを毎年開催しています。



### 再生紙の使用やペーパーレス化への取り組み

社内で使用している、コピー用紙やトイレットペーパー、名刺、また店舗で使用しているレジロールなどは再生紙を使用しております。また、会議資料のデータ化はもちろん、店頭でショップ袋不要のお申し出があったお客様には、アーバンリサーチのお買い物で使用出来る「グリーンポイント」の付与など、ペーパーレス化に向けた取り組みを推進しています。



### 3. Community Building / コミュニティの形成



- 3-1. 地域の技術や特産品を活かしたモノづくり
- 3-2. 異業種や自治体・NPOなど多様なビジネスパートナーシップ
- 3-3. 人々が集まり価値を共有できる場所づくり

### JAPAN MADE PROJECT

地域活性化をメインタスクとして、日本各地の企業やクリエイターによって作られるローカルコミュニティとともにその土地の魅力を再考し発信していくプロジェクト。

2020年1月末までにコラボした地域は東北・石川・京都・長崎・熊本の5つです。

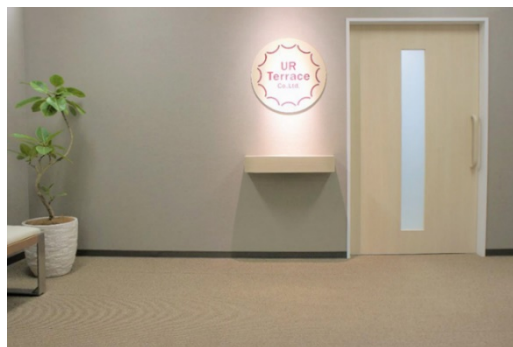
長崎県との取り組みでは、「長崎在住の人材と協業した長崎の魅力を伝える新しい商品の開発による地域経済の活性化」と、「全国販売による長崎の魅力発信」の2点を評価していただき、長崎市が推進する「長崎創生プロジェクト事業認定制度」にアパレル企業として初めて認定して頂きました。（2018年12月認定）

JAPAN MADE PROJECT 長崎創生プロジェクト事業



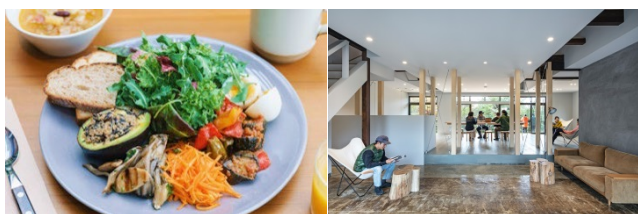
### 株式会社UR（ユアール）テラスの設立

障がい者雇用の促進を目指し、2019年4月に大阪本社内に子会社「株式会社URテラス」を設立しました。2020年1月末時点では約26名の障がい特性のある従業員が働いています。業務は本社からの委託事業である事務代行やWEBサイトの更新などを行っていますが、店舗で実際に販売する製品の企画や製造など、一般的な子会社にはない、アパレル会社ならではの業務も行っています。



### 長野県茅野市 / 蓼科

長野県茅野市の蓼科湖畔に宿泊滞在型施設「TINY GARDEN 蓼科」をOPENしました。（p.12）施設では地元の食材を使った料理の提供や特産品の販売、イベントの開催などにより地元の人たちとの繋がりを感ずることが出来る場所になっています。またワークスペースの運営など、新たなパートナーシップの誕生や人と人が価値を共感出来るための場所づくりを推進しています。



「当社は庭にあるテラスのような、働く方々にとって居心地の良い場を作り、明日をテラス（照らす）ような会社を目指しています。一人一人が仕事にやりがいと自信を持ち、さらに挑戦したい、社会に貢献したい、という意欲をサポートし、価値あるサービスを提供する場になれば良いと思います。」



株式会社URテラス  
代表取締役社長 萩原佳子

## Sustainableな動き。

SDR (Sustainable Development Research) のメンバーはじめ、各部署からもサステイナブルな取り組みが始まっています。

### 今年度の活動

#### 河田フェザー株式会社 訪問 (2019/2)

株式会社アーバンリサーチはGreen Down Projectの一員として積極的にダウン製品の回収と回収された羽毛での商品企画をしており、2019年秋冬の商品には約10トン（前年度は約4トン）のグリーンダウンを使用しました。この大幅増産に向けた事前打合せを兼ねて、SDRのメンバー数名で河田フェザー株式会社の三重工場に訪問しました。（2019年の弊社店頭でのダウン回収量は前年比約2倍増の約2トンとなりました。これは参加小売企業の中で断然トップです。ご協力いただいた皆様には、この場を借りて改めて御礼を申し上げます。）



河田フェザー株式会社は日本唯一の羽毛素材メーカーです。

新羽毛（混じりけのない「本物の羽毛」）を取り扱っている他、リサイクル羽毛「グリーンダウン」の精製も行っています。

訪れた三重県の工場にはGreen Down Projectによって回収された羽毛製品（写真1）が集積されていました。

1つ1つ手作業で羽毛製品を解体し羽毛を取り出す工程（写真2）やダウンとフェザーを選別する選別機（写真3）、

巨大洗濯機（写真4）など精製過程を見学することが出来ました。精製を終えた羽毛は隙間なく袋一杯に梱包されます。（写真5）

河田フェザー株式会社





## FASHION REVOLUTION JAPAN (2019/4)

### FASHION REVOLUTION

ファッションレボリューションは2013年4月24日、バングラディッシュの縫製工場ラナプラザで起きた崩壊事故をきっかけに始まった、ファッション業界に透明性をもたらすための世界的なムーブメントです。

2019/4/22(月)-2019/4/28(日)はファッションレボリューションウィークとして、世界各地でハッシュタグを活用したSNSキャンペーンやイベントが集中的に毎年開催されています。

株式会社アーバンリサーチでは期間中、店舗で

**「NO SHOPPING BAG」**を推奨し、

紙袋不要のお客様へオリジナルステッカーのお渡ししました。

(参加店舗：UR 表参道ヒルズ店、UR 神南店)



## GREEN ROOM FESTIVAL に出店 (2019/5)

### GREENROOM FESTIVAL

グリーンルームフェスティバルは「Save The Beach, Save The Ocean」をコンセプトに掲げ、世界中の音楽、アート、フィルムを通して、海やビーチのライフスタイルとカルチャーを伝えていくフェスティバルです。

2019/5/25(土)-2019/5/26(日)に横浜赤レンガ地区にて開催されました。

弊社は、環境について感じ、学べるような以下のワークショップを実施しました。

- “commpost” サコッシュ作りワークショップ
- オリジナル“エコ”チャームをつくろう！
- シルクスクリーンワークショップ～オリジナルTシャツ&エコバッグ作り～





## JAPAN MADE PROJECT "KUMAMOTO" ~ 渋うちわ ~ (2019/7)

JAPAN MADE  
URBAN RESEARCH

地域活性化をメインタスクとして、2014年9月から、日本各地の企業やクリエイターによって作られるローカルコミュニティとともに、その土地の魅力を再考し発信し続けています。

2019年7月発売開始

「栗川商店」の来民渋うちわ



日本三大産地として知られていた熊本県山鹿市（やまがし）来民（くたみ）の渋うちわの販売を開始しました。「渋うちわ」は柿渋を塗りコーティングした和紙を使用します。コーティングにより和紙を丈夫にし、長持ちさせ、さらに防虫効果の役目を果たします。

明治22年に創業し、現在も変わらず伝統的な手法でうちわづくりを行なっている「栗川商店」に依頼し「来民渋うちわ」をアーバンリサーチオリジナルグラフィックで作成しました。

## ABOUT / JAPAN MADE PROJECT KUMAMOTO

JAPAN MADE KUMAMOTOは、弊社と次の3つの団体がそのコンセプトや取り組みに共感し合い、協力して実現しました。

- ①熊本地震をきっかけに、「熊本地震のPR・熊本を元気にする・熊本のクリエイターを支援する」ことを目的とし、また、“想像力は奪えない”をテーマとして、熊本のクリエイターたちによって結成された「BRIDGE KUMAMOTO」。
- ②熊本の各地域の手仕事(伝統の工芸、食、芸能など)文化を、百年先まで伝えることを目的とした熊本県の推進事業「くまもと手仕事ごよみ」。
- ③天草の地域資源の活用や新たな魅力を探求する「シマノタネ」。



「桑原竹細工店」の竹細工



「野のや」の平成の天草更紗

「Ladybug」の手作り酒粕石鹸



## JAPAN MADE PROJECT "TOHOKU"～第5弾 販売～ (2019/9)



### **FISHERMAN JAPAN × URBAN RESEARCH**

JAPAN MADE PROJECT TOHOKU の第5弾として東北の若手漁師集団「FISHERMAN JAPAN」とコラボレーションし、水産業に関わる全てのワーカーへ向けた「フィッシャーマンブルゾン」を販売しました。

漁協や魚市場、魚屋などのワークシーンを考慮し、収納力と嵐でも耐えられる機能性にこだわった製品です。



## ABOUT / **JAPAN MADE PROJECT TOHOKU**

宮崎県石巻市の漁業を中心とした活動と協業し、共同企画をおこなっています。

業界初となる漁の現場で着用する「漁師ウェア」をはじめ、様々なプロダクトを製造し商品化しました。



### **FISHERMAN × URBAN RESEARCH**

未来の日本の水産業のために活動する彼らの取り組みや、活動理念である「三陸の海から水産業における“新3K”を実行するトップランナーになる(新3K=カッコいい、稼げる、革新的)」に共感し、弊社は2015年10月よりコラボレーションプロダクトの製造、販売を行っています。

漁業をカッコよくするために、カッコいいウェアを企画することで、お手伝いしていきたいと考えています。

また、コラボ商品の年間売上3%を、未来の漁師を育成するための活動基金として「FISHERMAN JAPAN」へ寄付しております。

### **今後について**

2017年より販売しているプロユースタイプの漁師ウェア(マリンブルゾン・サロベットパンツ)に関しては、現在水族館や漁協での採用が決定し全国での拡がりみせつつあります。今後においては、水産業界全体でこれらの商品の普及を目指し、ファッションの力によって働き手やその職業の魅力に光をあて、業界発展に貢献していく方針です。



池袋・サンシャイン水族館の飼育員のユニフォームとして採用されています。

## TINY GARDEN FESTIVAL (2019/8)

# TINY GARDEN FESTIVAL

TINY GARDEN FESTIVALは株式会社アーバンリサーチが開催するフェスティバルです。

URBAN RESEARCH DOORSのブランド設立10周年を記念して2013年度より開催がスタートし、今回で7度目の開催となりました。コンセプトは“小さな庭先で繰り広げられるガーデンパーティー。”

衣/食/住/遊にまつわるコンテンツが多数用意されています。例年、前夜祭を含め3日間開催されるこのフェスイベントは自然に囲まれた場所でのキャンプ体験や夜にはキャンプファイヤーやDJブースなどが開設され夜が深まった後も楽しめるのも魅力の1つです。会場は日本有数の高原キャベツの生産地でもある群馬県・嬭恋、「無印良品カンパーニヤ嬭恋キャンプ場」。地域農家の方々にご協力いただき、キャベツ1玉を無料で来場者にプレゼントする取り組みや嬭恋で収穫されたトウモロコシの販売など地域と協働したイベントとなっています。今年は環境をテーマに開催され、Patagonia様と弊社のディスカッション企画やサステイナブルに関連するブースの出店をしました。

開催日：2019/8/30(金)-2019/9/1(日)



↑ Patagonia様との環境ディスカッション



“commpost”の樹脂シートを使用して作る、オリジナルサコッシュワークショップを実施！  
紐とシートの色はそれぞれ好きな色をお選び頂きます。

TINY GARDEN FESTIVAL





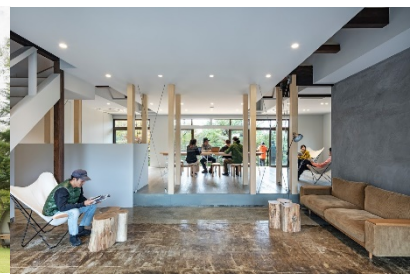
## TINY GARDEN 蓼科 OPEN~ (2019/9)



株式会社アーバンリサーチとして初の試みとなる宿泊滞在型施設「TINY GARDEN 蓼科」が2019年9月にグランドオープンしました。長野県茅野（ちの）市内、蓼科（たてしな）湖畔にキャンプ・ロッジ・キャビンの3タイプからなる客室と温泉やカフェ、ショップなどが併設した滞在型の宿泊施設を構え、アウトドアとともにあるライフスタイルを発信していきます。

アメニティや家具などもサステイナブルな物を使用し、湖と街をつなぐアウトドアブランド「EKAL」の物販スペースなども併設しています。

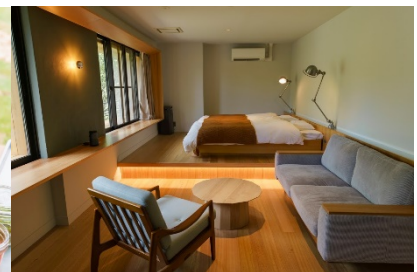
またサテライトオフィスを見据えたワーキングスペースがあるのも特徴です。



「コスメ アーバンリサーチ」のアメニティ。

成分の抽出から製品化まで全て日本で行っています。

可能な限り天然由来成分を使用し、石油系界面活性剤やエタノール、合成着色料などは使用していません。



FREITAG（フライターグ）のランドリーバッグ貸出しサービス（キャビンから温泉に行く時などに利用）  
FREITAGの商品は役目を終えたトラクター、車のシートベルト、自転車のインナーチューブなどのリサイクルマテリアルが使用されています。

URBAN RESEARCH DOORSのオリジナル家具ブランド  
“Bothy”の家具を使用

**使用する電気にもこだわっています。**

# みんな電力

「顔の見える電力」をコンセプトに日本各地の大きささまざまな自然エネルギーの発電所と契約し電気を販売されている企業様です。

お洋服を作る際に原料にこだわりをもって調達することは勿論ですが、Tiny Garden 蓼科では、施設内で使用する電力の生産者や産地を知ることが出来るというところに魅力を感じ、「みんな電力」を選択し導入しています。

今後も再生可能エネルギーの電力調達を始め、環境にやさしいオフィスづくりを目指します。

TINY GARDEN 蓼科



## GREEN DOWN PROJECT ～学生コンペティション最優秀作品の販売開始～ (2019/10)

# GREEN DOWN PRODUCT DESIGN COMPETITION

produced by  
URBAN RESEARCH Co.,Ltd.

2019年春、次世代のアパレル産業を担う学生の環境に対する意識のきっかけになればという想いから、学生を対象として「グリーンダウン」を使用した製品の第1回デザインコンペティションを実施しました。デザイン募集をするにあたり、複数の学校を訪問し「グリーンダウン」や今後のアパレルとサステイナブルの繋がりなどについて説明会を行いました。最優秀賞を受賞された平井様のデザインについては、ご本人と弊社デザイナーで打合せを重ね、2019年秋冬の商品として10月に販売を開始しました。

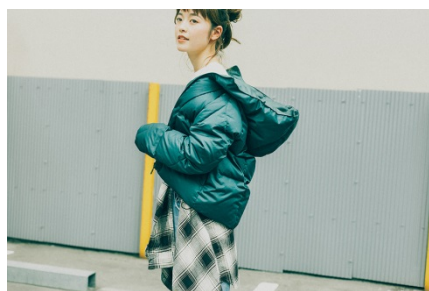
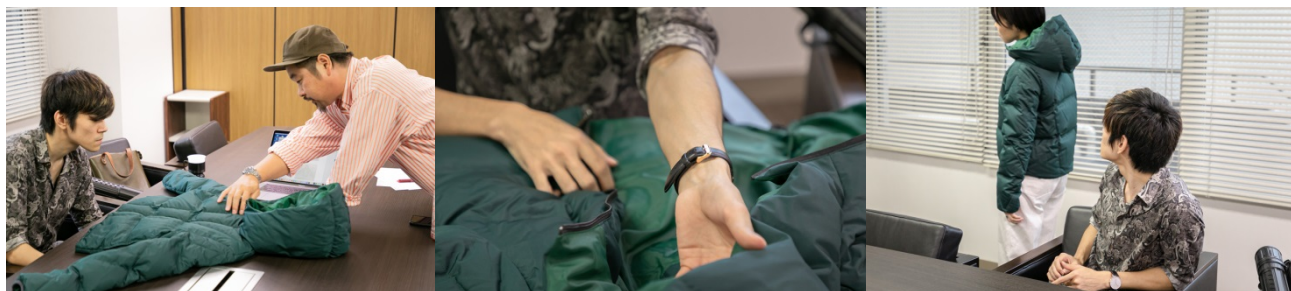


作品タイトル  
Change

### デザインコンセプト

このダウンジャケットを買った人の生活がより良い方向に「Change」、そして多くの人がこのダウンジャケットをきっかけにGreen Down Projectに関心を寄せ変わっていくことで世界を「Change」の二つの意味を込めています。

羽毛の有限性はもちろんのこと、世界規模で実際に起こっている環境問題などに関心をもつきっかけに。



受賞者インタビュー



価格：¥30,800 (税込)  
販売店舗：アーバンリサーチ オンラインストア、  
アーバンリサーチ ストア12店舗



## SDGS WEEKEND IKI COLORS (2019/11)



長崎県杵岐（いき）市にて開催された「持続可能な開発目標（SDGs）をテーマにした初のイベント「SDGs WEEKEND IKI COLORS」に出展しました。

「SDGs未来都市」および「自治体SDGsモデル事業」に選ばれている杵岐市は、最新のテクノロジーを駆使して国や民間企業と様々な取り組みを実施していることで注目をされています。

同市との連携によるJAPAN MADE PROJECT NAGASAKIの拡大を目指しフェスに参加しました。

開催日：2019年11月16日(土)



### BADGE WORKSHOP

ブースで販売しているJAPAN MADE PROJECTの商品をお買い上げ頂いたお客様に、長崎県のイラストレーター伊達 雄一氏にイベント限定で作成して頂いたイラストを使用した缶バッジを作るワークショップを実施しました。



缶バッジの絵柄 例



### 参加したメンバーの声

ブース外では杵岐市の取り組みである市民との対話会への参加や杵岐市のSDGs推進のご担当者とお話することが出来ました。学生を含め市民の方々が意識を高く持っていることが印象的で、そのスキームなどを体験できたことは、参加してよかったと感じる点です。国内外で注目されている杵岐市と深く取り組むことは、弊社としても大変意義深いことと感じており、今後、連携をとってプロダクトの開発などを進めていく予定です。



URBAN RESEARCH・ブランド販促 宮啓明  
(2020年1月時点)



## TOHOKU COTTON FESTIVAL (2019/11)

### 東北コットン TOHOKU COTTON PROJECT

2011年より東北コットンプロジェクトの発起人として、この取り組みに関わってきました。

今年はコットン摘み取りイベントが初めてフェスという形で開催され、総勢700名の方が参加しました。大型台風が千葉県を襲った直後のタイミングだったということもあり、弊社スタッフは被災された東北の方に少しでも元気になっていただければ、という強い想いを持ってイベントに参加しました。

企業ブースでは「東北コットン」とコラボしたオリジナルデザインのシルクスクリーンワークショップを開催しました。また、コットンの摘み取り作業もお手伝いしました。

開催日：2019年11月23日(土)

### WORKSHOP / COTTON 摘み取り



#### イベントに参加したメンバーの声

今まで東北コットンに関しては、会社の取り組みとして把握していただけという感覚で興味はあるが、個人的には実感・親近感のないものでした。しかし、今回初めて東北コットン収穫祭に参加させて頂き、実際に生産者様と出会い、お話し、収穫等の作業を共に行わせて頂き、また、現地の地元の方との交流を通して、この取り組みがいかにか意義深いものであるかを強く実感致しました。

綿という物を通して人々が繋がっている事に感動し、現状、現地の方にとっては、震災から立ち直ったというレベルには達している訳ではなく、各々の状況、感情の中でこの取り組みが生産者様の生きがいややりがいにつながっている事を感じました。

東北コットンという物自体への親近感・愛着も参加前と後では全く異なり、生産者様の想いを消費者へと届けていけるよう、この取り組みを盛り上げ、広めていく事に自分もできる限り貢献していきたいと強く感じております。

KBF・企画担当 下間 祥子  
(2020年1月時点)



## GOOD LIFE AWARD #7 (2019/11)



グッドライフアワードは、環境に優しい社会の実現を目指し、日本各地で実践されている「環境と社会にやさしい暮らし」に関わる活動や取組を募集して紹介、表彰し、活動や社会を活性化するための情報交換などを支援していく環境省主催のプロジェクトです。

2019年11月、弊社の廃棄衣料をアップサイクルする取り組み“commpost”が、**第七回 環境省グッドライフアワード 実行委員会特別賞「環境と福祉」賞**を受賞しました。  
 (“commpost”については「特集ページ」にて記載。)

2019/11/30 (土) に行われた受賞式の様子



## ECO PRODUCTS (2019/12)



エコプロは1999年から毎年12月に東京ビッグサイトで開催されている国内最大の環境イベントです。「持続可能な社会の実現に向けて」をテーマに、今年は企業や行政機関・自治体、NPO、教育機関など515社・団体が出展し、来場者数は147,653人にも及びました。

弊社は、自社の廃棄衣料をアップサイクルする取り組み“commpost”についてのブースを出展しました。デッドストックとなっていた廃棄衣料が商品になるまで、そして回収され、もう一度アップサイクルされるという循環システムに沿って、ブースを構成しました。

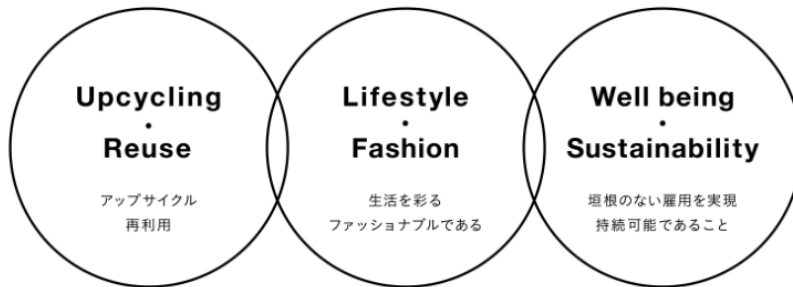


床には傷などで使えなくなったcommpostの樹脂シートを使用

# compost™

サステナブル・プロダクトブランド“**compost (コンポスト)**”の商品が販売開始より1年を迎えました。(2018年11月販売開始)

自社倉庫で廃棄される予定だった衣料品（販売不可能な不良品や汚損品）について、Colour Recycle Network様の“繊維を色で分けて付加価値のある素材にアップサイクルする”というカラーリサイクルシステムと大阪・箕面市で住民主体のまちづくりをされているNPO法人 暮らしづくりネットワーク北芝様、また4月に設立した子会社 株式会社URテラスによる縫製等の作業支援を受け、**協働によるものづくり**を広げることが出来ました。



## FLOWCHART



## PARTNERSHIP



2015年4月、京都工芸繊維大学大学院 木村照夫教授(現名誉教授)をプロジェクトリーダーとして発足されました。繊維はさまざま繊維が混ざりあっているため、素材別にかかるコストが課題となりリサイクルが進んでいない現状があります。Colour Recycle Networkは繊維を色で分けてリサイクルする「カラーリサイクルシステム」をコンセプトに、デザイナー、研究者、成形加工業、故繊維業、素材メーカー等がネットワークを組んで、廃棄繊維から付加価値のあるプロダクトを開発しています。弊社は廃棄衣料の課題解決に向け、この研究技術を使った商品開発を始めました。初めて代表にお会いした時から約二年間かけてカラーリサイクルシステムを使ったモノ作りを協働で実現することが出来ました。現在も様々な課題に対して試行錯誤を繰り返し、さらに良い素材・商品にするため、意見交換を続けています。





特定非営利活動法人  
暮らしぶくりネットワーク北芝

大阪府箕面市萱野地域で2001年に設立された、就労困難者の支援や住民主体のまちづくりをされている特定非営利活動法人です。

北芝様とは本取り組みの開始当初から、共に良いモノづくりに向け、意見交換を行ってきました。

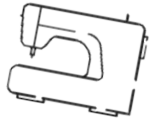
「どこでも・だれでも」作業が出来るという汎用性を持たせるため、一般的な家庭用ミシンを使っても作りやすいという点を追求しました。

ある時は生地が厚すぎてミシンの針が折れたり、ある時は生地が薄すぎて強度の問題が生じたり…。その度に意見を出し合っては生地を見直し、縫い方を工夫することで、今のMULTIPURPOSE BAGが出来上がりました。

現在までに、延べ40人の10代～80代の方が縫製や折り返し、パッケージや値札付けの作業に携わられています。

妊娠中の方や小さなお子さんがいる方、働きたいけどフルタイムではしんどいな…という方などが作業されています。実際に作業されている方からは「居場所があって、おしゃべりもできて、家にいるより楽しいです」と言っています。

～生産現場～



### △大阪府箕面市とのつながり

上記、北芝様とのパートナーシップがきっかけとなり、2019年8月より大阪府箕面市のふるさと納税返礼品として「compost MULTIPURPOSE BAG / 箕面市限定チャコールグレーカラー」(右写真)

をお取り扱いいただいています。

北芝様が運営されているB-MARTと箕面市ふるさと納税でしか手に入らない限定カラーを製作しました。



箕面市限定の  
ネームタグを作成  
しました。



株式会社URテラスは障がい者の雇用促進を目指し、株式会社アーバンリサーチの子会社として2019年4月に設立されました。

さまざまな業務を請け負っていますが、commpostの作業チームとして活動しているメンバーは2020年1月末現在、4名。

URBAN RESEARCH DOORS・南船場店の2階が縫製作業場所になっています。メンズのお洋服や家具の販売スペースと隣接しており、ご来店いただくお客様からも作業をしている様子が見学できるようになっています。



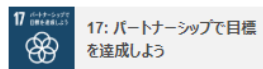
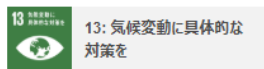
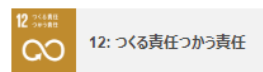
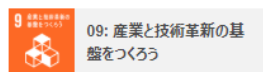
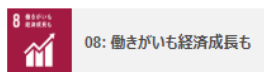
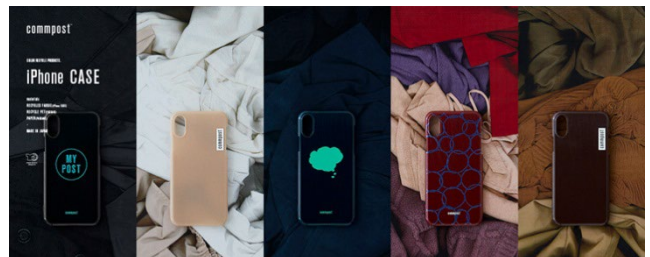
### 株式会社 URテラス 業務管理責任者の声

URテラスでは“commpost”の縫製から納品までを請け負っています。株式会社アーバンリサーチの「サポートをする仕事」をしている従業員にとって、「業務の一任を負う仕事」は時にプレッシャーになります。しかし、それ以上に自分が携わっている事にやりがいを感じています。お店に並んでいる商品を見に行くと、嬉しそうに報告してくれる従業員に対し、これからもアパレルならではのワクワクするお仕事を増やしていきたいと思えます。また、“commpost”に興味を持って入社希望をされる方もいらっしゃるので、障がい者雇用の促進にも繋がっていると実感しています。

## 株式会社 河島製作所

commpost 第二弾の商品としてiPhone CASEを2019年9月に発売しました。廃棄衣料から生まれたiPhoneケースを使っていただくことで、環境意識を表示する一つのツールになってほしいという想いを込めています。研究チームColour Recycle Networkと、東大阪の町工場でiPhoneケースを生産している株式会社河島製作所と弊社との協働で取り組みました。廃棄衣料由来の繊維を混合しての成形は初めての試みであったため、大変苦労しました。

通常の成形と異なり、速度や温度、縮率などの細かな微調整が必要でした。高い技術力と試行錯誤の末、納得のいくiPhoneケースを仕上げることができましたが、完成直後はまさに『下町ロケット』の喜びのシーンのようなものでした。一般のiPhoneケースは中国などの安価な工場で生産されていることが多いですが、このように日本の町工場に環境に配慮したiPhoneケースを作ることで、廃棄衣料削減だけでなく日本で培われた技術力にも寄与することができています。



commpost





I do care

2019年度 SDGs年次活動報告書  
(2019年2月1日~2020年1月31日)

**UR**

URBAN RESEARCH Co.,Ltd.